

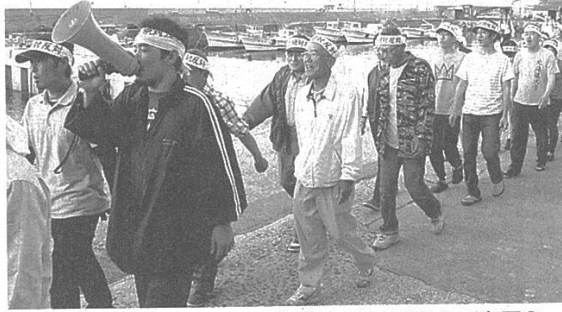
上関原発反対 1300回目デモ

祝島島民「白紙撤回まで続ける」

中国電力(広島市)の上関原発建設計画に反対して、上関町の離島・祝島の島民が島内で続けてきたデモ行進が14日、1300回目を迎えた。島民約70人が参加し、結束を呼び掛けた。

祝島の対岸、上関町長島での原発建設計画が浮上したのは1982年。デモはこの年の秋から毎週月曜の夕、雨の日などを除いて続けられてきた。82年当時に1300人いた島民は現在375人。高齢化率も76・53%に達し、ここ数年はデモの参加者も40人ほどだった。14日のデモには、島に移住した若者も参加し、島内の約1・3キロを行進して計画反対を改めて訴えた。

上関原発建設は、中国電力が2009年に予定地で準備工事に着手したが、11年3月の東日本大震災による東京電力福島第一原発事故後、工事は中断した。再開は困難との見方もある。



原発建設予定地が見える漁港をデモ行進する島民ら

しかし、中国電の水希茂社長は4月の記者会見で「国内唯一の新規地点として非常に重要だ」と上関原発の必要性を強調。来年7月には、建設予定地の公有水面埋め立て免許が期限を迎えるため、中国電が延長を申請した場合、県は難しい判断を迫られることになる。

「上関原発を建てさせない島民の会」の清

水敏保代表(63)は「この建設計画を諦め、白紙のデモをやらなくてもいい日が一日も早く来てほしい。中国電力が撤回するまで続ける」と話した。

【松本昌樹】



白衣姿で記念撮影する子供たち

「看護の日」多様な催し

山口市阿知須の阿知須共立病院(三好正規院長)で12日、「看護の日」イベントがあり、来場した約1500人が健康チェックやミニバザーなど多様な催しを楽しんだ。

同病院は毎年、近代看護を築いたナイチンゲールの誕生日に由来するコーナーもあつ

「有帆市まつり」芝居など楽しむ

山陽小野田

山陽小野田市の有帆公民館とその周辺で13日、「有帆市まつり」があり、約2000人が芝居や踊り、地産地消農産物の直売コーナーなどを楽しんだ。

約240年の歴史がある、地元の氏神を祭る催しで、有帆ふるさとづくり協議会主催。朝からあいにくの雨で「竜王太鼓」など一部アトラクションは中止となったが、大勢の家族連れらが繰り出し、採血して肝炎ウイルスの有無を調べたりするコーナーもあつ

た。看護師によるハンドマッサージ体験では、来場者が施術を受けながら健康に関する相談をしていた。また、放射線技師らが検査機を使って骨年齢を調べ、プースでは大勢の人が列を作った。

ナース服の試着体験もあり、白衣に身を包んだ子供たちを家族が撮影していた。宇部市

の幼稚園児、水田美結ちゃん(5)は「服が可愛い。楽しかった」と笑顔で話した。

【松田栄二郎】

山口市議会が正副議長選出

坂井氏と入江氏

山口市議会は14日、改選後初の臨時会を開き、議長に坂井芳浩氏(53)＝京都創生山口、



製品などを買っていた。

呼び物の「鹿島寿市川富士夫一座」公演では、舞踊や、笑いなど涙の人情芝居などを来場者が堪能した。幕前には子供みこしが会場

◇第10回毎日吟土権大会 未悠、牟田南々海、田添喜

【高齢者の1部】

末宗良一、北原勢津子、古